

201129004B

厚生労働科学研究費補助金

地域医療基盤開発推進研究事業

健康長寿につながる小児期からの  
定期的歯科チェックアップシステムの構築

平成22年度～23年度 総合研究報告書

研究代表者 田中 光郎

平成24（2012）年 5月

厚生労働科学研究費補助金

地域医療基盤開発推進研究事業

健康長寿につながる小児期からの  
定期的歯科チェックアップシステムの構築  
(H22-医療-一般-006)

平成22年度～23年度 総合研究報告書

研究代表者 田中 光郎

平成24(2012)年 5月

## 目 次

### I. 総合研究報告

健康長寿につながる小児期からの定期的歯科チェックアップシステムの構築 —— 1

田中光郎

- (資料) 資料1：英国のデータ  
資料2：デンマークのデータ  
資料3：オランダのデータ  
資料4：スウェーデンのデータ  
資料5：オーストラリアのデータ  
資料6：米国のデータ  
資料7：日本のデータ  
資料8：チェコのデータ  
資料9：ハンガリーのデータ

# I. 総合研究報告

厚生労働科学研究費補助金  
(地域医療基盤開発推進研究事業)  
総合研究報告書

## 健康長寿につながる小児期からの定期的歯科チェックアップシステムの構築

研究代表者 田中 光郎  
岩手医科大学歯学部教授

### 研究要旨：

現在の日本の小児歯科検診は子ども達の歯科疾患を早期に発見して歯科受診を勧めるスクリーニングとして重要な役割を果たして来ているが、この検診はすでに生じてしまった歯科疾患のスクリーニングであること、学校を卒業した途端に定期的な歯科検診を受けなくなる人々が生じる、という2つの問題点を指摘することができる。一方、欧米で行われている「チェックアップ」は個々の小児の状況に応じた清掃指導、摂食指導、PMTC、フッ化物塗布などの予防的指導や処置、バイトウイングX線検査による隣接面齲蝕の早期発見などを行うオーダーメイドの歯科健康診査であり、大人数を対象として一律に行う「スクリーニング」に比較して、歯科疾患を「予防」する観点からは格段に有用なシステムである。

本研究課題では、12歳児のDMFTが低い英国、デンマーク、オランダ、スウェーデン、オーストラリア、高いチェコ、ハンガリー、そして中間に属する米国と日本の9か国について、12歳児を持つ母親を対象に定期的な歯科チェックアップに関してアンケート調査を実施した。小児のチェックアップの受診率は英国、デンマーク、オランダ、スウェーデン、チェコでは95%以上であり特にスウェーデンでは99%となっており、ほとんどすべての小児が定期的チェックアップを受けていたが、日本は44%にすぎなかった。受診させていない理由としては「必要を感じていない」、「経済的に負担が大きい」「時間的に余裕がない」ことが挙げられていた。事実、英国、デンマーク、スウェーデンではほとんどの人が自己負担がないのに対し日本では80%が自己負担していた。また、チェックアップのために学校を休んだことが一度もないと回答した母親は、スウェーデン、デンマークでそれぞれわずかに12%、13%であり、米国32%、オーストラリア34%、チェコ37%、オランダ42%、英国53%、ハンガリー79%で日本は98%であった。

わが国では、定期的チェックアップの価値が欧米ほど評価されておらず、社会的、経済的な背景も相俟って実際の行動に結びついていないが、小児の口腔衛生状態の更なる改善は将来の成人の口腔衛生状態改善にも資するものであり、欧米並みに受診率を上げることはわが国の口腔保健向上の観点から今後取り組むべき課題である。

## A. 研究目的

2005年の厚生労働省歯科疾患実態調査では、1984年に4.8本であった12歳児のDMFTが1.8本にまで減少していることが示されており、わが国の小児口腔内は齲蝕罹患状況の観点からは一定の水準にまで改善してきている。しかし一方では、2009年のOECD Health Dataに示されているように、ドイツや英国の0.7本、OECDの国々の平均値1.6本と比較するといまだに世界の先進諸国の中では齲蝕の多いグループに属しており、今後のさらなる小児口腔衛生状態改善の余地が残されているものと考えられる。

現在の日本の小児歯科検診は子ども達の歯科疾患を早期に発見して歯科受診を勧めるスクリーニングとして重要な役割を果たして来ているが、この検診はすでに生じてしまった歯科疾患のスクリーニングであること、学校を卒業した途端に定期的な歯科検診を受けなくなる人々が生じる、という2つの問題点を指摘することができる。一方、欧米で行われている「チェックアップ」は個々の小児の状況に応じた清掃指導、摂食指導、専門的な機械的歯面清掃（PMTC）、フッ化物塗布などの予防的指導や処置、バイトウイングX線検査による隣接面齲蝕の早期発見などを行うオーダーメイドの歯科健康診査であり、大人数を対象として一律に行う「スクリーニング」に比較して、歯科疾患を「予防」する観点からは格段に有用なシステムである。定期的に歯科を受診している人は、高齢になってもより多くの歯が保存されることが報告されており、定期的なチェックアップは高齢になっても自分の歯で

食事ができるという意味で個人のQOLを高めることにつながるばかりでなく、歯の喪失によって必要となる高額な補綴処置の総体的な数の減少によって歯科医療費の削減に繋がるものと考えられる。現在のわが国の健康保険制度は予防への給付が行い難いという問題点が指摘されており、今後は現在の健康保険制度に加えて、健康長寿の観点から病気を未然に防ぐことを主眼とする新たな健康増進のためのシステム構築が求められるようになるものと予想される。

本研究課題では、定期的歯科チェックアップとその国の小児の齲蝕罹患程度を示す標準のバロメーターである、12歳児のDMFTとの関連性に注目して、わが国と欧米諸国との現状を比較検討した。

## B. 研究方法

OECDの国々の中で12歳児のDMFTが低い英国、デンマーク、オランダ、スウェーデン、オーストラリア、高いチェコ、ハンガリー、そして中間に属する米国、日本の9か国について、12歳児を持つ母親を抽出して定期的な歯科チェックアップに関してアンケート調査を実施した。

アンケートの人数は英国、スウェーデン、オーストラリア、日本が135名、米国、デンマーク、ハンガリーは105名、オランダが100名、チェコは40名であった。アンケート項目は表1に示す通りで、チェックアップに関連した12の項目を抽出して質問項目とした。

それ以外に回答者の実態を把握するために、年齢、性別、子どもの数、年収、居住地区、についても質問に含めた。実

際アンケートはマクロミル社の国際アンケートシステムを介して実施した。アンケートは匿名で行われ、また特定の個人が識別できないシステムとなっており、倫理面で問題となるような点はなかった。

### C. 研究結果

図1は今回調査した9か国の12歳児のDMFTである。OECD Health Data 2009からのデータであり調査年に差はあるが概ね現状を示していると考えられる。OECD加盟国の中でもっともDMFTの値が低い国は、英国で0.7本、ついでデンマーク0.8本、オランダ0.9本、スウェーデン1.0本、オーストラリア1.1本、米国1.3本で、わが国は1.7本、DMFT値の高い国として2.6本のチェコと3.3本のハンガリーを調査国の中に加えた。図2はアンケートに回答を寄せた、12歳児を持つ母親の平均年齢と標準偏差を示している。チェコのみ平均年齢が若く36.5歳であった。図3はその平均子ども数で各国とも平均では2人から3人の子ども数であった。

図4は小児のチェックアップの受診率をパーセントで示している。英国、デンマーク、オランダ、スウェーデン、チェコでは95%以上の受診率であり特にスウェーデンでは99%となっており、ほとんどすべての小児が定期的歯科チェックアップを受けていた。オーストラリアは85%でやや低い日本は44%で他の国々の半数以下の受診率であった。表2は定期的歯科チェックアップを受けさせている理由を複数回答可として、頻度順に番号をつけたものである。「むし歯にさせたくない」「歯は健康に重要

である」が各国共通の受診理由であった。逆に定期的には歯科を受診させていない理由の集計を表3に示す。受診させていないケースが少ないため、回答は主に日本とオーストラリアのものであるが、「現在齲蝕がなく必要を感じていない」、「経済的に負担が大きい」が主な理由で、日本では「時間的に余裕がない」ことがさらに理由として挙げられていた。また、日本の不受診理由の「その他」には学校検診が多く記載されていた。

図5は定期的なチェックアップの開始年齢を示しているが受診率とほぼ平行しており、受診率の高い、英国、デンマーク、オランダ、スウェーデン、チェコでは平均3歳までには開始されているが、米国(3.8歳)オーストラリア(4.8歳)ハンガリー(5.4歳)ではやや遅く、日本ではSDが大きく平均は9か国中最も遅い5.6歳であった。

子どもを定期的チェックアップに通院させている頻度を図6に示す。英国、デンマーク、オランダ、米国、チェコ、ハンガリーでは多くが年に2回通院しているのに対し、スウェーデン、オーストラリアでは年に1回の方が2回より多かった。日本は年に1回、2回、3回がほぼ拮抗していた。

チェックアップに経済的な自己負担があるか否かを図7に示す。英国、デンマーク、スウェーデンではほとんどの人が自己負担なしで受診することができ、オランダやチェコ、ハンガリーでは約20%が、オーストラリア、米国では約半数が日本では80%が自己負担していた。

チェックアップ時に支払う費用についての回答をまとめたのが表4である。

スウェーデンでは自己負担している人は2%に過ぎないが、その額は8500円と高額で、次いでオーストラリアの6500円、オランダ4400円、英国、米国の3200円、チェコ2800円、ハンガリー2300円、日本は2000円でデンマークは自己負担する人はスウェーデン同様少ないが負担額も少なく1400円であった。どのくらいまで歯科のチェックアップに支払っても良いと思うかという問いに対する回答で、自己負担している人々では英国、デンマーク、米国、チェコ、ハンガリー、日本では自己負担額より多い額が回答されており、チェックアップが現在の負担額に見合う内容であると考えているものと解釈される。一方、スウェーデン、オランダでは高すぎる、オーストラリアではやや高すぎると認識されている。

チェックアップのために学校を休んで歯科を受診させたことがあるかとの問いに対する回答をまとめたものが表6である。スウェーデン、デンマークではこれまでに学校を休んだことがないと回答した母親はわずかに12%、13%であり、米国32%、オーストラリア34%、チェコ37%、オランダ42%、英国53%で、ハンガリーは79%、日本は98%が休ませたことがないと回答している。

母親自身がチェックアップを受診しているか、またその頻度をまとめたものが表7である。定期的に通院していない母親は日本がもっとも多く53%、次いでオーストラリアの31%、米国29%、ハンガリー20%、英国15%、スウェーデン13%、デンマーク、オランダ、チェコは少なくそれぞれ7%、7%、5%であった。日本では年3回以上受診する

との回答が他の国々に比べて多かった。

母親自身がチェックアップに行くために仕事を休んだことがあるかとの問いに対する回答を表8に示す。表9は仕事をしている母親のみの回答結果である。日本では仕事を持たない母親の比率がもっとも多く47%で次に多いのは米国の29%であり、スウェーデンでは最も少なく3%であった。有職者のみの結果では仕事を休んだことがない比率が高い順に、日本、ハンガリーが85%、オランダ73%、英国59%、オーストラリア53%、米国49%、スウェーデン48%、チェコ45%、デンマーク43%であった。

表10は歯科に関連した事項に対する関心の度合いを、関心の高いものから順に番号を附って戴いた結果を全数との比率で示したものである。各国とも「むし歯がないこと」がもっとも関心の高い事項であり、次いで「歯ぐきの病気がないこと」、3番目は「口臭がないこと」であり、「歯並びが良いこと」、「歯が白いこと」は比較的関心が低かった。

#### D. 考察

12歳児のDMFT値はその国の小児齲蝕罹患状況の指標とされており、わが国の状況を外国との比較において検討する上で客観的な基準値となるものである。厚生労働省歯科疾患実態調査によれば、日本における小児の齲蝕罹患状況は年々改善して来ており、昭和62年の4.9本から平成17年には1.7本と大きく変化している。しかしながら、う歯を持つ者の割合は5~9歳が14.6%であるものが、25~29歳で98.3%にまで増えてしまうという現状を考えれば、さらなる改善を目指した取り組みが求められる。本

研究課題では、定期的に行う歯科チェックアップの国民への浸透はこうした目標を達成するための重要な取り組みであるとの観点から、その各国の状況をわが国との比較において検討を行った。

今回の調査でもっとも印象的であったのは、図4に見られるように、日本の子ども達は44%が定期的なチェックアップを受けているが、欧米の国々ではほとんどが95%以上であり、大きな違いがあることが明らかになった。定期的なチェックアップに通院させている理由については「むし歯にさせたくない」「歯は健康に重要である」で他の国と同様であったが、通院させていない理由としては、定期的チェックの価値が評価されていないことに加えて、経済的な負担が大きく、時間的余裕もないことなどが挙げられていた。図7に示されているように、80%が費用を自己負担しており、この点も欧米との違いが大きい部分である。表6はチェックアップで学校を休ませた経験を調査した結果であるが、日本では98%が学校を休ませたことがないと回答しており、学校に対する感覚の欧米との違いが反映しているものと思われる。母親自身の定期的なチェックアップについても、表7のように、わが国では53%が行っておらず、子ども親もその価値を評価しておらず、社会的にも通院することがコンセンサスにはなっていない。さらに自己負担がかかるために通院の意欲が抑制されているのが現状である。

本研究の作業仮説としては、世界の国々の12歳児DMFTが定期的なチェックアップ率と関連しているのではないかと考えたわけであるが、12歳児

DMFTは必ずしも定期的なチェックアップ率と平行していないことが判明した。またスウェーデンでは主に年に1回のチェックアップとしているにもかかわらず、良好なDMFT値となっており、定期的なチェックアップという観点だけでは、小児の齲蝕罹患を説明することは困難である。海外視察によってデンマーク、スウェーデンにおける学校での歯科衛生行政が良好な結果を生んではいないが、財政的に困難な問題がありその制度も徐々により経済的に効率的なものに変わりつつあることが明らかになった。ただそうした制度が続いたことによる口腔保健に対する国民の意識の高さは継続して継承されている点が重要であり、わが国の厚生行政に参考となると思われる。

国民皆保険は、すべての国民が、低料金で、良質な歯科治療を受けることができるという画期的なシステムであるが、その恩恵の中では、欧米諸国に見られるような、齲蝕になったら高額な治療費が必要になることを心配して、予防しようというインセンティブが働かないことが、大きな問題点であるということが出来る。この国民皆保険をより効率的な制度にするためには、国民一人一人が自分の健康を自己管理して、病気を未然に防ごうとする意識を高めるような制度が望まれる。

欧米のDMFTの低い国々、特に北欧では、制度としてのチェックアップシステムが確立しており、そのために国からの相当な”投資”も行われている。特に子どもは社会が守らなければならないとの基本的な考え方に基づいて、子どもの齲蝕予防に力が注がれ、またその甲斐



なく齲蝕が発生した時には無料で治療が受けられるという制度が定着している。

現在わが国の定期的歯科チェックアップとしては1歳半健診、3歳児健診があり、その間を埋める健診体制については、各自治体の財政状況によってまちまちな対応となっている。1歳半健診に引き続いて年に1度のチェックアップ体制が整うことを期待したい。欧米の低DMFT諸国では定期的チェックアップが無料となっており、その自己負担率とチェックアップ受診率とは相関しており、やはり経済的なてこ入れが必要になると思われる。しかしながら、こうした制度によって予防意識が高まり、治療ではなく、予防のために歯科を訪れるという意識の変容による疾病の抑制の恩恵は、医療費の面からのみならず、歯の寿命も長くさせ、国民一人一人のQOLを高め、健康長寿をもたらすという意味で、大局的にはわが国の豊かさにつながってゆくものと思われる。

#### E. 結論

わが国では欧米と比較して、定期的な歯科チェックアップの価値が評価されておらず、社会的、経済的な背景も相俟って実際の行動に結びついていない。

小児の口腔衛生状態の更なる改善は将来の成人の口腔衛生状態改善にも資するものであり、欧米並みに受診率を上げることがわが国の口腔保健向上の観点から今後取り組むべき課題である。

#### F. 健康危険情報

なし

#### G. 研究発表

なし

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

表 1 定期的チェックアップに関するアンケート

S1	あなたの性別をお答えください。
S2_1FA	あなたの年齢をお答えください。 【】
S3	あなたはお子さんがいますか？いる方は人数をお答えください。
S4	お子さんの年齢はおいくつですか？ 2人以上お子さんがいる場合は、年長の方から順に年齢をお答えください。
S5	あなたの世帯年収をお知らせください。
S6	現在お住まいのある住所について、あてはまる地域区分をお選びください。注1：政令指定都市とは、以下の都市が該当します。北海道（札幌市）、宮城県（仙台市）、埼玉県（さいたま市）、千葉県（千葉市）、神奈川県（横浜市、川崎市、相模原市）、新潟県（新潟市）、静岡県（静岡市、浜松市）、愛知県（名古屋市）、京都府（京都市）、大阪府（大阪市、堺市）、兵庫県（神戸市）、岡山県（岡山市）、広島県（広島市）、福岡県（北九州市、福岡市）
Q1	あなたのお子さんは、歯科健診を受けるために定期的に歯科医院へ行っていますか？
Q2	あなたのお子さんが定期的に歯科医院へ行く理由は何ですか？（該当するものすべてお選び下さい。）
Q3_1FA	あなたはお子さんが何歳頃から定期的に歯科医院に通わせていますか？通院を開始した年齢をお答えください。 【】
Q4	あなたのお子さんは定期健診のために、どの位の頻度で歯科医院に通っていますか？
Q5_1FA	あなたのお子さんの歯科定期健診で、支払う費用は1回いくら位ですか？ 【円/1回】
Q6_1FA	健康保険や市区町村からの補助率はどの位ですか？（健康保険の家族なら70%、市区町村から出ていると100%などと書いて下さい。）*わからない方は空欄で結構です。 【%】
Q7_1FA	健康保険や市区町村などからの補助が全くない場合、あなたはいくら位までなら1回の歯科定期健診に支払っても良いと思いますか？ 【円/1回】
Q8	あなたはお子さんを歯科定期健診のために学校を休ませたことがありますか？
Q9	あなたのお子さんが、定期的な歯科健診を受けていない理由は何ですか？（該当するものすべてお選び下さい。）
Q10	あなたご自身は定期健診のために歯科医院にどの位の頻度で通っていますか？
Q11	あなたご自身は歯科の定期健診のために仕事を休んだことはありますか？
Q12	次の事柄を重要と思う順に、1番(最も重要)から5番(最も重要でない)まで番号を付けて下さい。

図 1 : 調査国の 12 歳児 DMFT

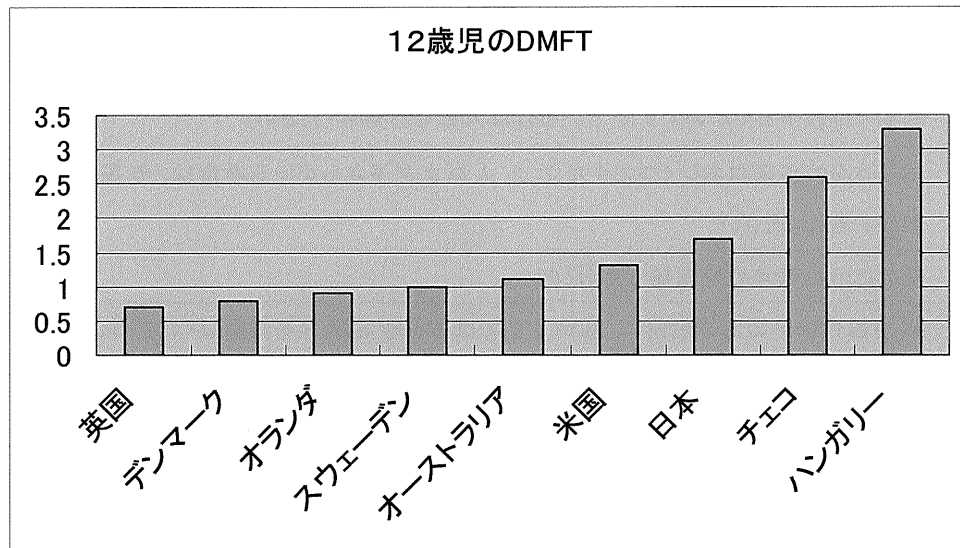


図 2 : 回答した母親の平均年齢

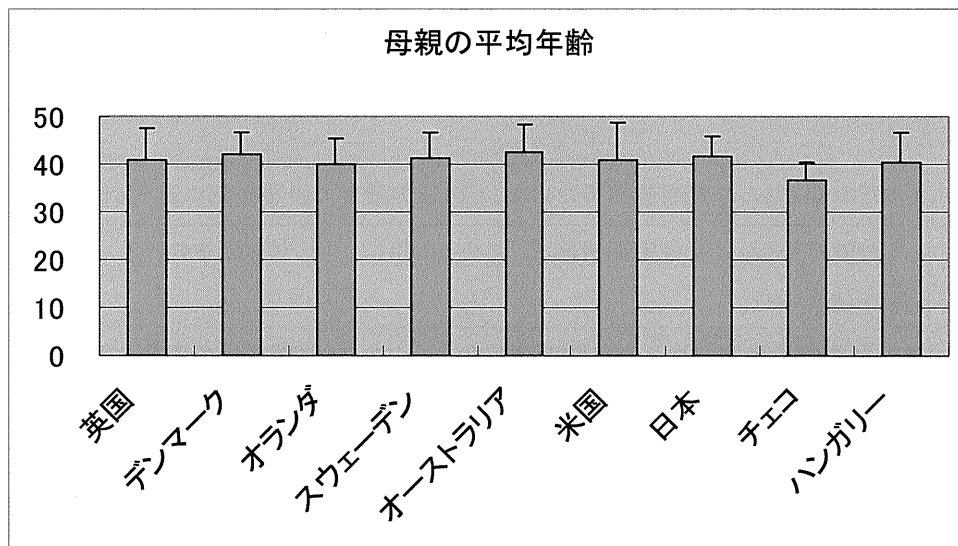


図 3 : 各国の平均子ども数

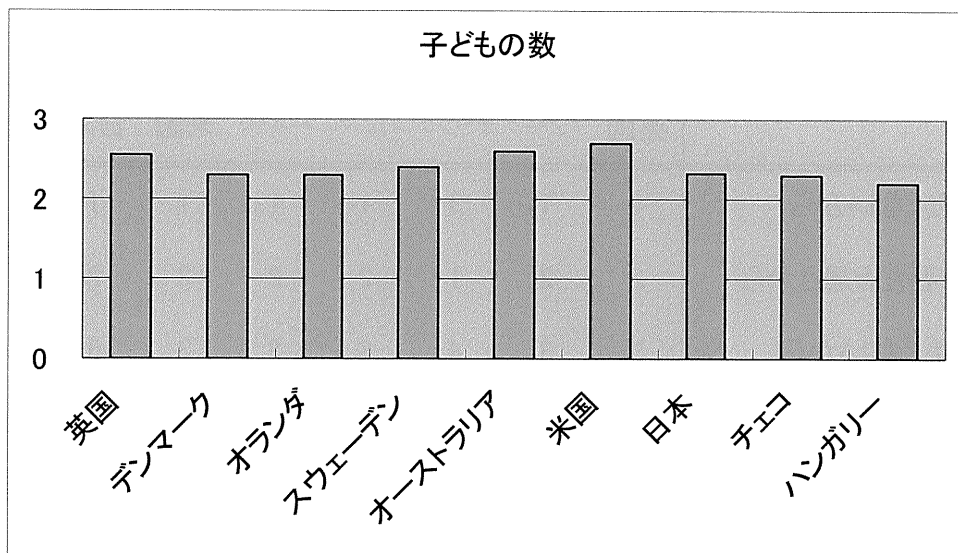


図 4 : 定期的チェックアップ受診率

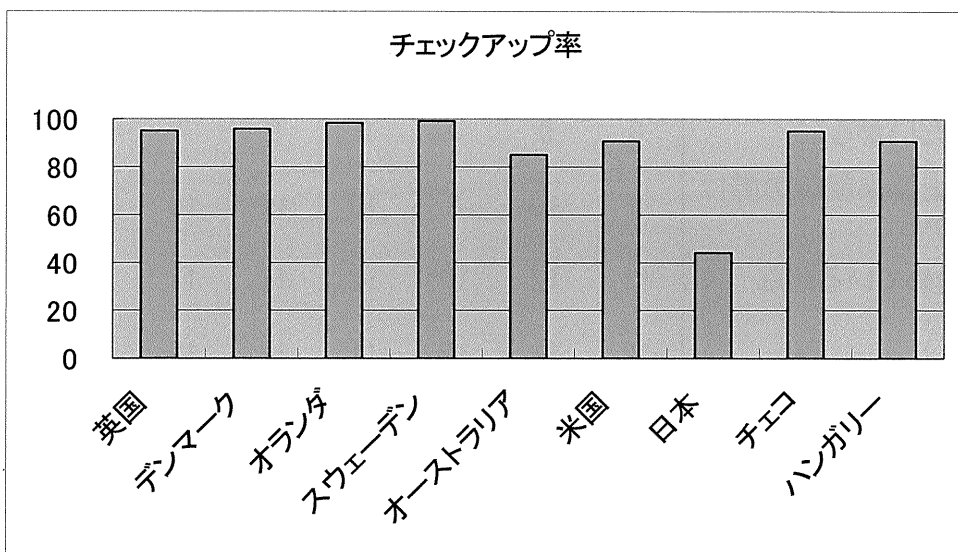


表 2：子どもに定期的チェックアップを受診させている理由

受診理由の国別順位

	英国	デンマーク	オランダ	スウェーデン	オーストラリア	米国	日本	チェコ	ハンガリー
むし歯にさせたくないから	1	1	3	1	1	1	1	1	2
歯は健康に重要だと思うから	2	2	1	2	2	2	2	2	1
歯周病にさせたくないから	3	3	4	6	3	3	6	3	3
我が家の慣習になっているから	4	4	2	3	5	6	5	6	6
きれいな歯並びにさせたいから	5	7	5	7	6	5	3	4	4
歯科定期健診で将来の歯科治療費を少なくできると思うから	10	5	11	4	4	4	7	5	7
歯医者さんに勧められているから	6	6	6	5	8	9	4	9	10
口臭予防をさせたいから	7	8	7	8	7	8	9	7	5
白い歯にさせたいから	8	9	9	9	9	7	8	8	8
歯がきれいだと将来就職の際に有利だと思うから	9	10	8	10	10	10	10	10	9
保険会社が勧めているから	11	12	10	12	11	11	12	11	12
その他	12	11	12	11	12	12	11	12	11

※ 網掛けは上位3項目を示す

表 3 : 子どもに定期的チェックアップを受診させていない理由

不受診理由

	英国	デンマーク	オランダ	スウェーデン	オーストラリア	米国	日本	チェコ	ハンガリー
お子さんにはむし歯がないから	1	1	0	0	7	2	39	0	2
費用がかかり過ぎるから	0	0	1	0	12	5	21	0	1
お母様もお子様も歯科医院へ行く時間がないから	1	0	0	0	2	1	17	0	1
お子さんが怖がって行きたがらないから	3	0	0	0	3	0	4	0	3
予約が取りにくいから	0	0	0	0	3	2	3	1	2
歯科の定期健診は必要ないと思うから	1	0	0	1	0	0	7	0	0
その他	2	3	1	0	4	2	7	1	3

図 5 : 子どもに定期的なチェックアップを受けさせ始めた年齢

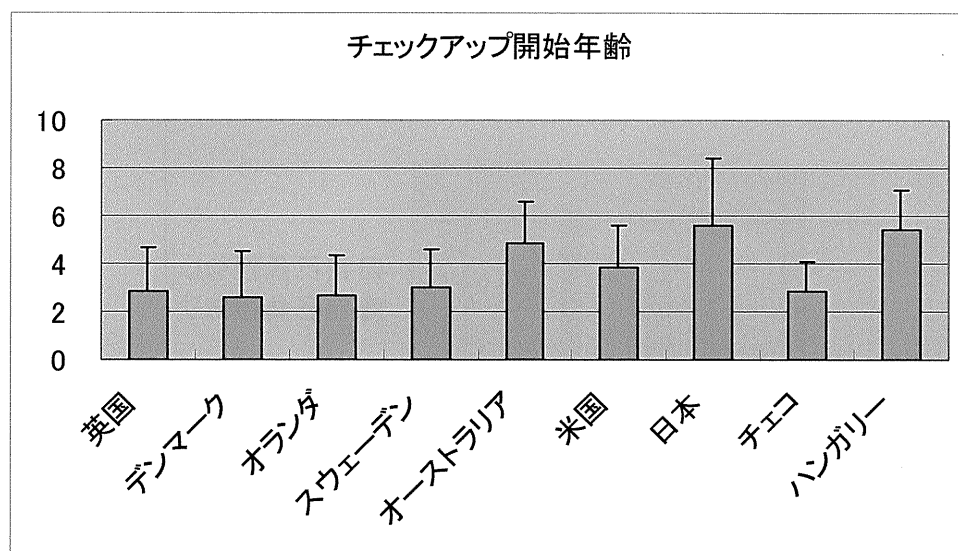


図 6 : 子どもの年間定期的チェックアップ回数

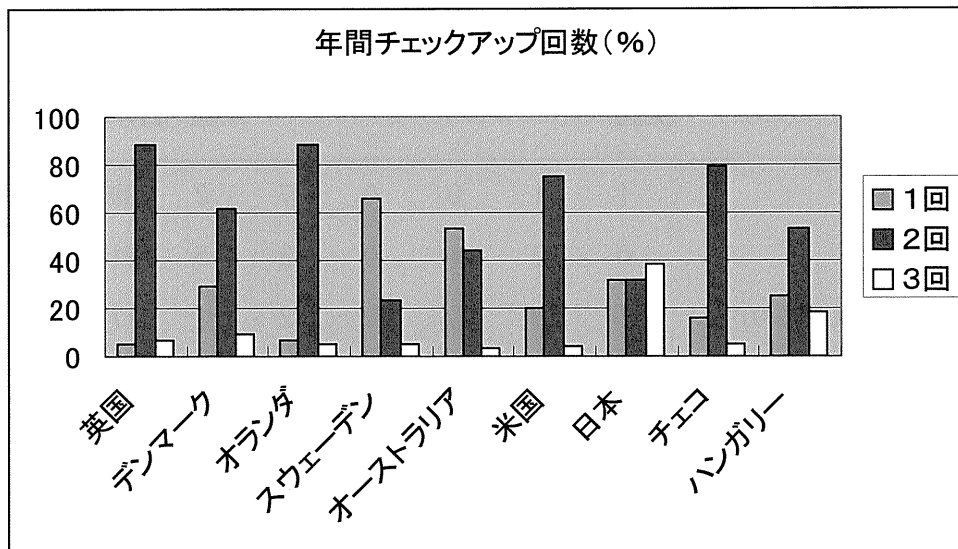


図 7 : 子どもの定期的なチェックアップ時の自己負担の有無

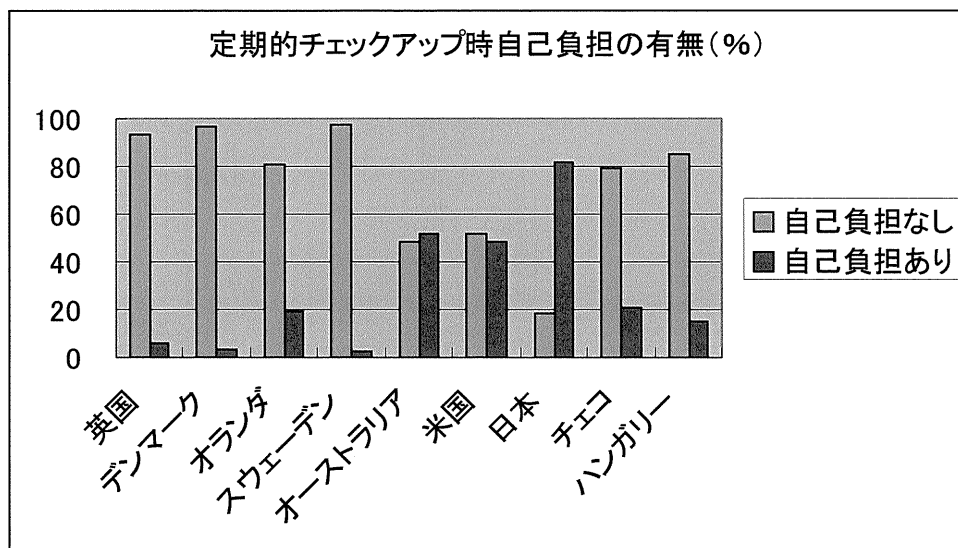


表 4：定期的チェックアップ時に自己負担のある人となない人での許容限度の比較

**定期的歯科チェックアップ自己負担額と許容額**

	英国	デンマーク	オランダ	スウェーデン	オーストラリア	米国	日本	チェコ	ハンガリー
全数(人)	128	101	98	134	105	96	59	38	95
自己負担なし(人)	120	98	79	131	51	50	11	30	81
許容できる費用平均(円)	1400	2800	2500	3700	4500	2700	1300	600	1000
自己負担あり(人)	8	3	19	3	54	46	48	8	14
負担額平均(円)	3200	1400	4400	8500	6500	3200	2000	2800	2300
許容できる費用平均(円)	3300	2400	2800	2800	5600	5000	2300	3300	2400

表 5：定期的チェックアップのために子どもに学校を休ませた経験

**定期的チェックアップで学校を休ませた経験(%)**

	英国	デンマーク	オランダ	スウェーデン	オーストラリア	米国	日本	チェコ	ハンガリー
毎回	2	24	2	11	10	1	0	11	1
しばしば	1	19	2	25	3	5	0	3	2
時々	44	45	54	52	54	61	2	50	18
一度もない	53	13	42	12	34	32	98	37	79
全数(人)	128	101	98	134	115	96	59	38	95



表6：母親自身の定期的チェックアップの通院頻度

**母親の定期的チェックアップの通院頻度(%)**

	英国	デンマーク	オランダ	スウェーデン	オーストラリア	米国	日本	チェコ	ハンガリー
年に1回程度	16	38	15	54	35	22	22	30	50
年に2回程度	61	45	68	19	24	47	10	65	18
年に3回以上	7	7	9	4	1	2	11	0	7
その他	2	4	1	10	9	1	4	0	5
定期的には通院していない	15	7	7	13	31	29	53	5	20
総数(人)	135	105	100	135	135	105	135	40	105

表7：母親が定期的チェックアップで仕事を休んだ経験

**定期的チェックアップで仕事を休んだ経験(%)**

	英国	デンマーク	オランダ	スウェーデン	オーストラリア	米国	日本	チェコ	ハンガリー
毎回	3	11	3	5	4	5	0	13	0
しばしば	4	10	3	9	2	5	0	8	0
時々	23	33	15	36	30	25	8	26	13
一度もない	43	41	59	46	42	35	45	39	71
働いていない	26	5	19	3	22	29	47	13	15
定期的受診者数(人)	115	98	93	117	93	75	64	38	84

表 8 : 母親が定期的チェックアップで仕事を休んだ経験 (有職者のみ)

**定期的チェックアップで仕事を休んだ経験(%)有職者のみ**

	英国	デンマーク	オランダ	スウェーデン	オーストラリア	米国	日本	チェコ	ハンガリー
毎回	5	12	4	5	5	8	0	15	0
しばしば	6	11	4	10	3	8	0	9	0
時々	31	34	19	37	38	36	15	30	15
一度もない	59	43	73	48	53	49	85	45	85
定期的受診者数(人) 有職者のみ	89	93	74	114	71	46	17	25	69

表 9 : 歯科に関連した事項に対する関心度

**歯科関連事項に対する関心度(%)**

	英国	デンマーク	オランダ	スウェーデン	オーストラリア	米国	日本	チェコ	ハンガリー
むし歯がないこと	61	70	71	75	69	66	81	60	71
歯ぐきの病気がないこと	16	24	4	13	16	17	12	23	8
口臭がないこと	13	1	9	5	10	7	6	13	6
歯並びが良いこと	4	2	7	4	2	2	1	5	8
歯が白いこと	7	4	9	3	2	9	1	0	8
全数(人)	135	105	100	135	135	105	135	40	105

※ 網掛けはもっとも関心が高い事項

資料 1 : 英国のデータ

[NTABLE001]

S1	あなたの性別をお答えください。 単一回答	N
1	男性	0
2	女性	135
	全体	135

[NTABLE002]

S2_1FA	あなたの年齢をお答えください。 【】 自由記述				
		全体	無回答	統計量母数	合計
1		135	0	135	5527
		平均	標準偏差	最小値	最大値
		40.94	6.83	27.00	60.00

[NTABLE003]

S3	あなたはお子さんがいますか？いる方は人数をお答えください。 単一回答	N
1	子供はいない	0
2	1人	15
3	2人	61
4	3人	40
5	4人	13
6	5人	2
7	6人	2
8	7人以上	2
	全体	135

[NTABLE004]

S4	お子さんの年齢はおいくつですか？ 2人以上お子さんがいる場合は、年長の方から順に年齢をお答えください。 単一回答	全体	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	
			1	お子さんの年齢(1人目)	135	0	0	0
2	お子さんの年齢(2人目)	120	0	0	1	3	3	
3	お子さんの年齢(3人目)	59	1	5	2	3	1	
4	お子さんの年齢(4人目)	19	1	0	2	0	0	
5	お子さんの年齢(5人目)	6	0	0	2	0	0	
6	お子さんの年齢(6人目)	4	0	0	0	0	0	
7	お子さんの年齢(7人目)	2	0	0	0	1	0	
			5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳
			0	0	0	0	0	0
			4	3	6	9	7	8
			4	5	1	6	0	2
			2	1	1	1	1	1
			0	1	0	1	0	0
			1	1	0	0	0	0
			0	0	0	0	1	0
			11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳
			0	65	1	14	12	6
			4	45	3	2	6	5
			0	22	0	1	2	0
			2	5	0	0	0	0
			0	0	0	1	0	1
			0	2	0	0	0	0
			0	0	0	0	0	0
			17歳	18歳	19歳	20歳以上		
			13	5	4	15		
			2	1	3	5		
			0	0	1	3		
			0	0	0	2		
			0	0	0	0		
			0	0	0	0		
			0	0	0	0		

[NTABLE005]

S5	あなたの世帯年収をお知らせください。 単一回答(単位はポンド)	N
1	10,000未満	9
2	10,000 - 11,999	7
3	12,000 - 14,999	8
4	15,000 - 19,999	10
5	20,000 - 24,999	15
6	25,000 - 29,999	14
7	30,000 - 39,999	22
8	40,000 - 49,999	10
9	50,000 - 59,999	11
10	60,000 - 69,999	3
11	70,000 - 79,999	1
12	80,000 - 89,999	2
13	90,000 - 99,999	2
14	100,000以上	6
15	わからない/回答したくない	15
	全体	135